

仲間と共にサッカー熱く

市民タイムス・カガミ杯

第35回市民タイムス少年サッカー新人戦・カガミカップが31日に開幕し、35チームが優勝を争っている。新チームならではの粗さはあるものの、目を見張る力強いシュートや巧みな個人技、ボール争奪の局面での執念などが、この先への期待を抱かせた。

新型コロナウイルスの影響で、見守る保護者も声援は抑えめ。熱い気持ちを内に秘め、拍手などで選手たちを後押しした。

(肥後健二)

ゴール前でのせめぎ合い。双方の気持ちがぶつかる(筑摩野―堀金)

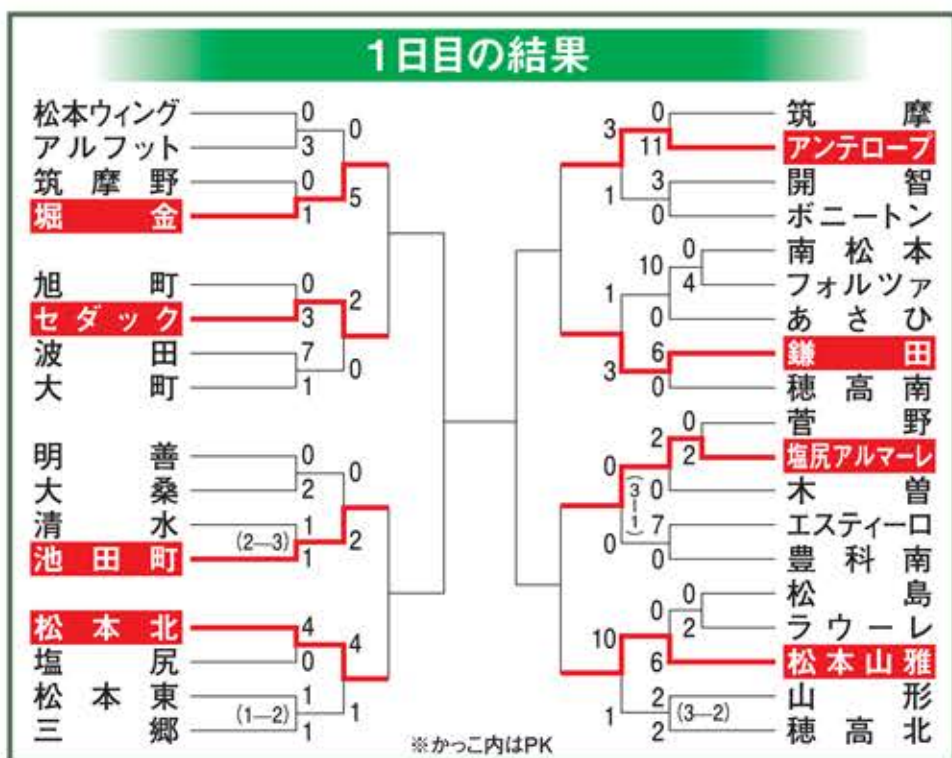


相手守備網を切り裂くドリブル突破。果敢な姿勢は会場を沸かせた(鎌田―穂高南)

完全にラインを割るまではインプレー。慌てることなく線上でボールを扱う(フォルツァ松本―あさひ)



先制ゴールを喜ぶ。派手なガッツポーズ。気持ちが表れる(松本北―三郷)



ゴールは目前。ライン上ぎりぎりのボールに食らいつく(大桑―池田町)



ゴール前の攻防に保護者の視線はくぎ付け(塩尻アルマーレ―木曾)



守備陣のプレッシャーを受けながらゴールを決める(エスティーロ―豊科南)



試合前に輪をつくる選手たち。監督やコーチの指示に耳を傾ける(松本北―三郷)



交代でピッチに飛び出す選手たち。はやる気持ちを抑えてポジションへと散る(旭町―セダック)

各会場では新型コロナウイルスの感染防止対策が取られた。手指消毒用のスプレーが置かれたほか、保護者もマスク着用での応援となった(松本市サッカー場)

